

## 栗棟美里 - アーティスト・ステートメント

私は自らが撮影した写真を支持体とし、その上から描画を施すミクストメディアの手法で、一貫して美・存在・時間・生命といったものの本質を問い続けてきました。

近年は、インターネットを介した情報過多社会の中で「見る」という行為の本質とは何かをコンセプトに制作を行っており、企業との共同を通し表現の可能性を拡張しています。

コンセプト及び表現の根底には、「唯識思想」という日本 13 大仏教の内「法相宗」が支持する思想が存在します。それは、仏教経典の多くを漢訳した玄奘三蔵が最も宣揚を望んだ思想で「あらゆる存在は心の流れである」と説き、その内容は哲学性・宗教性・科学性に富んだ、現代社会に対し一石を投じる思想です。

そういった唯識思想に加えた普遍的命題が、現代社会にある対象物の形態を借りるという形で写真を用いて、私の表現に包含されています。

普遍的命題は、しかしながら多くの場合それを日常生活や多忙な執務の中で、その繊細な本質への配慮はなされずに（もしくはその存在にさえ気づかれぬままに）我々は漫然と生きてしまうことも然りです。

私はアートというビジュアルコミュニケーションの成立する方法をとることで、鑑賞者にメッセージを伝えます。それが言葉でもなくアートという表現であるのには、私にとってメッセージは警鐘ではないということ、また独立した文脈でも成立し得る存在価値を獲得したアートという形をとることによって、身分・立場・世代・国籍を超え人々にそれを届ける必要があるからと考えます。

私にとって「真に美しいものは何か。またあらゆる存在や時間の本質、人間としてこの次元に生きるということについての探求」それらが表現の原動力となっています。

生命や事物が存在し得る限りある時間、またそれらを可能な限り所有し続けたいという人間の我欲に対し、美術の振る舞いについて制作を通し探求を続けてまいります。